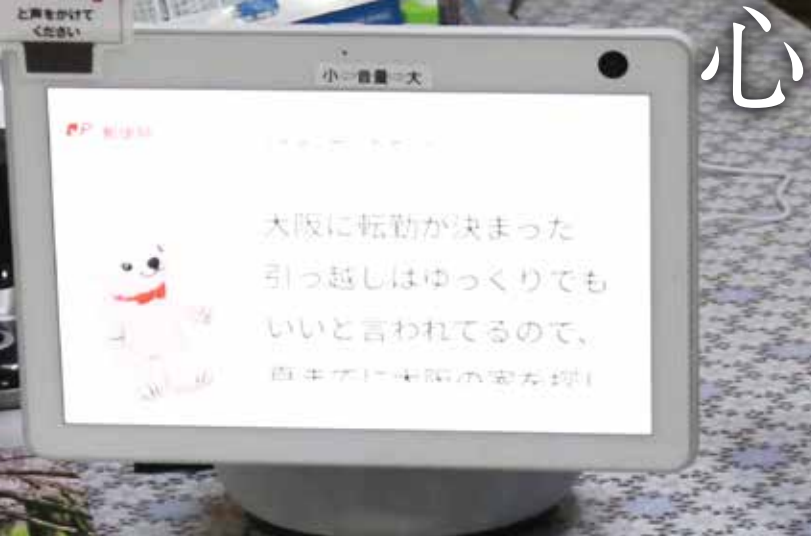




つながる

安心



市の人口は、6万7898人(令和6年4月1日時点)で、そのうち65歳以上の高齢者は2万7861人となっています。これは人口の約41%にあたり、全国平均を10%以上も上回ります。

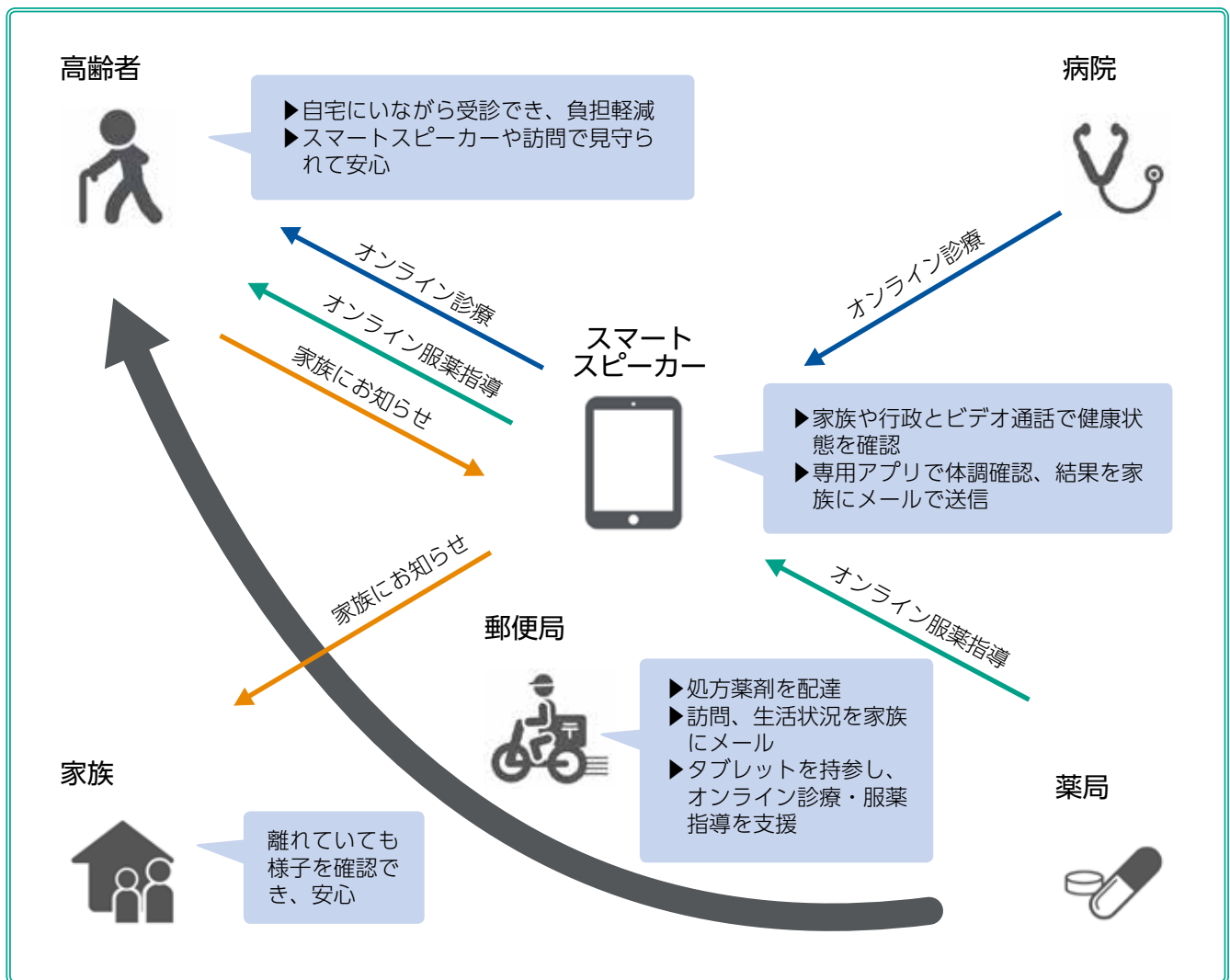
そのような中、山間部・島しょ部などでは医師が不足し、在宅診療を行う病院も少なく、高齢者世帯にとっては通院が難しいため、医療の地域格差が生じています。

また人口減少と核家族化が進んでいることに加え、地域のコミュニティが希薄になっているため、1人暮らしの高齢者などの見守りも重要な課題です。

そこで市では、民間企業や医療機関などと協力して、デジタル技術を活用した高齢者・見守り診療を令和4年から開始しています。

# デジタルでつなぐ安心

## 高齢者見守り・オンライン診療



市では、デジタル技術を活用し住民サービスの向上や地域の課題解決に取り組んでいます。その一環として、さまざまな分野で連携している(株)日本郵便と、郵便局のネットワークを活用した「高齢者見守り・オンライン診療」を行っています。

これは、見守りが必要な高齢者世帯に言葉を認識するAI（人工知能）機能を持つスピーカー（スマートスピーカー）を設置し、専用アプリによる健康確認などを行うものです。確認した結果は、スマートスピーカーから家族にメールで自動送信されます。

自宅に居ながらビデオ通話による診療や服薬指導を受けることもでき、オンライン診療の処方をもとに薬局が調剤した薬が郵便局から利用者の自宅に届けられます。これにより、通院にかかる負担を軽減することができます。さらに、郵便局が定期的に高齢者宅を訪問し様子をメールでお知らせすることで、離れて暮らす家族も安心できます。

今回はこれらの取り組みに関わる人たちに話を聞きました。



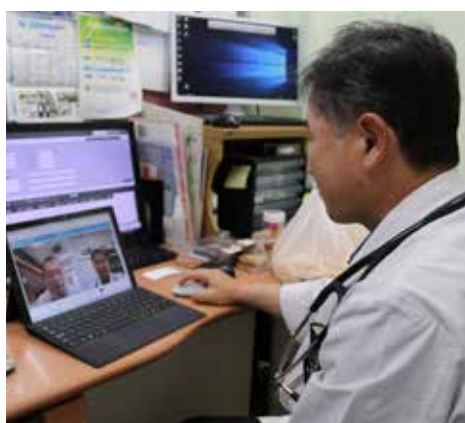
## 遠隔地の患者さんに安心を

口羽外科胃腸科医院 院長 口羽正知さん



んの声や表情によく注意をして情報収集をしなければならぬという難しさはありますが、とても便利なものなので十分な周知をしてたくさんの人に利用してほしいです。今後は遠隔地診療にどんどん活用していきたいですが、遠隔地ではまだ電波環境が悪いところがありますので、その整備が重要な課題だと思います。

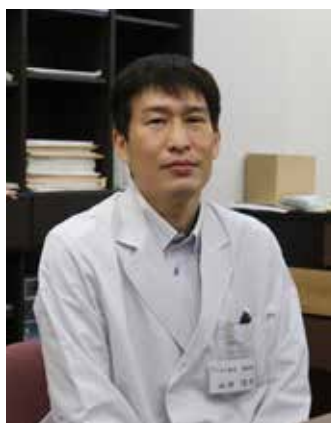
通院するのが難しい患者さんへの訪問診療には取り組んでいきましたが、オンライン診療はこれまで経験したことがなかったもので、やってみたいと思う反面上手くできるかという不安もありました。しかし実際に取り組んでみると、患者さんから「病院にかかる負担が軽減された」「見守りカメラがあることで安心できる」という声をもらい、やってみて本当によかったと思います。



対面の診察とは違い、患者さ

## オンラインだからこそその強みを

ダテ薬局 薬剤師 山内隆史さん



ビデオ通話画面に映してもらったことで、必要な薬か不要な薬かを一緒に確認することができず。薬局窓口で薬を持参される方は少ないので、オンラインならではの強みだと感じました。

もっとたくさんの方がこのサービスを利用できるように、薬剤師会宇和島支部として体制を整え、各薬局にも周知をしていきたいと思っています。

事業の立ち上げメンバーに愛媛県薬剤師会宇和島支部として参加しました。同時期に遠隔地で在宅訪問・薬剤管理の必要な患者さんがいたので、この事業を活用することで患者さんの負担を軽減できたらと考え、オンラインによる服薬指導をスタートしました。

最初は患者さんに薬の説明をきちんとできるか心配でしたが、やってみると対面と変わらず服薬指導を行うことができました。また家に置いてある薬を



## 誰かとながって安心してできる

利用者 港権平さん 若さん



これまでは、介護が必要な妻を自宅から40キロ離れた市内中心部の病院へ送り迎えしていたのでとても大変でしたが、自宅に居ながら診療してもらえらるようになり、とても楽になりました。最初はスマートスピーカーを使いこなせるか不安でしたが、言葉だけで操作ができ、使い方もサポートしてもらえたので問題なく使うことができました。スマートスピーカーが服薬の時間を知らせてくれるので、飲み忘れもなく助かってい

ます。県外に住む家族ともメッセージやテレビ電話で話すことができ、妻とスマートスピーカーのやりとりを耳にするだけで、誰かとながっているんだなと安心できます。

また、郵便局さんが定期的に来て、自分たちの様子を遠く離れた家族にメールで連絡してくれます。家の近くできれいに咲いた桜の写真を家族に送ってくれ、うれしかったです。



## 離れていても同じ時間を共有できる

利用者の家族の声

宇和島で1人暮らしの母と離れ、東京で暮らしています。物忘れが多くなってきた母の様子をどうやって見守ろうか思案していたときにこの取り組みを知り、渡りに船だと思いました。行政と郵便局による地域に密着したサービスなので安心してお願いすることができました。

毎日、スマートスピーカーと母の会話履歴を見て元気なのが分かり、ほっとしています。他にも、ビデオ通話をしながら一緒に食事をするなど同じ時間を共有することで、離れていてもそばで暮らしているように見守ることがができます。高齢で付き合い合いの少ない母が1人暮らしで不安なことがあっても、市役所や郵便局の方が訪問して話を聞いてくれるので本当にありがたいなと思います。

この取り組みはデジタルとア

ナログの両方で多面的にケアサポートをしてもらえるのがすごく良いと思います。



▲家族がLINEで送った写真とメッセージがスマートスピーカーから音声で流れる



## 地域に密着したサービスを

宇和海郵便局 浅田将貴さん(右)

細川優之介さん(左)



宇和海地区に住んでいる高齢者世帯の見守りやオンライン診療・服薬指導のサポート、処方薬の配達を担当しています。

利用者の自宅に月に1回訪問し、けがや病気、体調の変化はないか、心配事や日常生活の困り事はないかなど話を聞いています。訪問した記録は、利用者の様子が分かる写真と一緒に家族にメール

で送付しています。郵便局は地域に密着することを大事にしていますので、ただサービスを提供するだけでなく、利用者が会話を楽しみ、喜んでもらうことを心がけています。また実際に訪問したからこそ分かる様子を連絡することで、少しでも家族を安心させることができたらと思います。

他にも、オンライン診療を受けて薬局から調剤された薬を配達した後、専用のタブレットを利用者の自宅に配達し、オンライン服薬指導のサポートを行っています。必ず対面で配達するので「体調はどうですか」などの声かけを欠かさないようにしています。利用者が「来てくれるのが楽しみ。いつも頼りにしているよ」と言ってくれるのがうれしく励みになっていて、普段から地域の人とコミュニケーションをとることがとても重要だと感じています。



この取り組みを必要としている人はまだたくさんいると思います。通院に負担を感じていたり、日常生活に不安を感じている高齢者や家族がいたら、まずは遠慮せずにご相談して、多くの人にこのサービスを利用してもらえたらと思います。

今後は、訪問したからこそ分かる高齢者の様子を行政・医療機関・介護事業所など幅広く情報共有し、地域ぐるみで高齢者や家族をサポートしていく仕組みができたらいいと思います。そして地

域と行政など関係機関との橋渡しになれるように尽力していきたいです。



# 住み慣れたまちで安心して暮らすために



今後もデジタル技術が発展することで私たちの生活がますます便利になることが考えられます。それとともに、地理的な制約や年齢などにかかわらず、誰もがその恩恵を受けられることのできる社会を目指していくことが求められます。

自宅で安心して暮らしたい高齢者や見守る家族のためにデジタル技術を上手く活用していくことは大切です。また手厚いサポートを行うには行政の力だけでは限界があり、地域に根差したネットワークを持つ民間企業との協力も重要です。

住み慣れたまちで自分らしく生きていけるように、離れていてもつながる「安心の輪」をみんなで広げていければと思います。

## Digi田（でじでん）甲子園2023で内閣総理大臣賞を受賞

内閣官房ではデジタルの力を活用して地域課題の解決に取り組む事例を幅広く募集し、特に優れたものを表彰する「Digi田（でじでん）甲子園」を開催しています。

その中で、市の「高齢者見守り・オンライン診療」の取り組みが地方公共団体部門で優勝（内閣総理大臣賞 審査委員選考枠）しました。

スマートスピーカーを活用して、利用者である高齢者の体調や服薬情報を確認し、行政、医療関係者などとの共有により利用者やその家族の安心につながることができ、地域間の医療格差の解消に役立つと評価されました。



▲令和6年3月6日、総理大臣官邸での表彰式の様子

問 高齢者福祉課地域包括支援センター  
☎49-7018